

平成26年7月24日（木曜日）

午後1時17分開会

会議に付した案件

○概要説明

教育委員会、商工観光労働部

1. 競技施設について
2. 平成25年度 県外からのスポーツキャン  
プ・合宿の受入実績について

○協議事項

1. 県外調査について
2. 次回委員会について
3. その他

出席委員（16人）

委員	長	山下	博三
副委員	長	有岡	浩一
委員		中村	幸一
委員		星原	透
委員		蓬原	正三
委員		十屋	幸平
委員		横田	照夫
委員		松村	悟郎
委員		後藤	哲朗
委員		右松	隆央
委員		清山	知憲
委員		太田	清海
委員		渡辺	創
委員		河野	哲也
委員		囷師	博規
委員		徳重	忠夫

欠席委員（1人）

委員		内村	仁子
----	--	----	----

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教 育 長	飛 田 洋
教 育 次 長 ( 総 括 )	原 田 幸 二
教 育 次 長 (教育政策担当)	谷 口 英 彦
教 育 次 長 (教育振興担当)	今 村 卓 也
総 務 課 長	大 西 祐 二
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	日 高 和 典

商工観光労働部

商工観光労働部次長	梅 原 裕 二
観光物産・東アジア戦略局長	金 子 洋 士
部 参 事 兼 商 工 政 策 課 長	田 中 保 通
観 光 推 進 課 長	孫 田 英 美

事務局職員出席者

政策調査課主任技師	山 口 大 吾
政策調査課主幹	松 浦 好 子

○山下委員長 開会に先立ちまして御報告を申し上げます。

本日は、内村委員からの欠席の連絡が入っておりますので御了承ください。

それでは、ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会をいたします。

まず、本日の委員会の日程についてですが、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は教育委員会と商工観光労働部に出席をいただき、当委員会の調査項目である体育施設の充実に関することについて、本県の体育施設

の現状等やスポーツキャンプ等の説明を受けた  
と考えております。

次に、4の協議事項であります。10月15日  
から17日にかけて予定しております県外調査な  
どについて、御協議いただきたいと思いま

す。以上のおり決定することに御異議ありませ  
んか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○山下委員長** それでは、そのように決定をい  
たします。

それでは、執行部入室のため、暫時休憩をい  
たします。

午後1時18分休憩

---

午後1時19分再開

**○山下委員長** では、委員会を再開いたします。

今日は、教育委員会と商工観光労働部におい  
でいただきました。

なお、今日は都城市選出の内村仁子委員が所  
要のため、欠席をいたしております。

それでは、早速ですが、概要説明をよろしく  
お願いいたします。

**○飛田教育長** 教育委員会でございます。どう  
ぞよろしくお願いいたします。

夏の甲子園代表の決定とかインターハイがそ  
ろそろ始まりますし、きょうの中体連の開会式  
も見ていただきましたが、いろいろな機会に声  
援を送っていただいて、応援をしていただい  
ていることにお礼を申し上げたいと思いま

す。ただいま委員長のほうからお話がございま  
したとおり、今日は商工観光労働部と一緒に出席  
をさせていただいております。午前中の現地調  
査に引き続きまして、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日、報告いたします項目につ  
きまして御説明をいたします。

下のほうに教育委員会と記載されている資料  
の中ほどの目次をごらんください。

まず初めに、教育委員会から、競技施設につ  
いて御説明させていただきます。その後、別冊  
資料になりますが、商工観光労働部から、平成25  
年度県外からのスポーツキャンプ・合宿の受け  
入れ実績について御説明をさせていただきます。

詳細につきましては、この後、担当課長が説  
明いたしますのでよろしく申し上げます。

私からは以上でございます。

**○日高スポーツ振興課長** 資料の1ページをお  
開きください。

1、国民体育大会招致表明から開催までのス  
ケジュールについて御説明いたします。

(1) 国体開催についてであります。国体  
は昭和21年の第1回大会以来、我が国最大のス  
ポーツの祭典として広く親しまれ、国民の健康  
増進と体力向上、スポーツの普及と発展、そし  
て豊かな活力ある地域社会づくりに大きく寄与  
してまいりました。

昭和63年の第43回京都国体から2巡目がスタ  
ートし、昨年のスポーツ祭東京2013で68回を数  
えることになりました。

本県におきましても、昭和54年に第34回国民  
体育大会として、「日本のふるさと宮崎国体」が  
開催され、この国体がもたらした県民の自信と  
誇りはその後の県勢発展の大きな原動力とな  
りました。

続きまして(2) 国体開催までのスケジュー  
ルについてであります。

ア、国体開催内々定までの手順といたしまし  
て、①県体育協会による「国体招致」決議、②  
県体協による西日本地区各県体育協会長の同意

取りつけ、③県体協による知事・県教育委員会・県議会に対する「国体招致要望書」提出、④知事による「国体招致」表明、県議会による「国体招致」決議、県教委による「国体招致」決議、⑤県・県教委・県体協の連名による文部科学省及び日本体育協会に対する「開催要望書」提出、⑥日本体育協会による「開催申請書提出順序」承認となっております。

イ、内々定後のスケジュールとして、長崎県では開催9年前に県と会場地市町村の業務分担等の確認を行い、翌年から会場地市町村の選定を始めております。

5年前に知事・県教委・県体育協会の連名による開催申請書を文部科学省と日本体育協会に提出し、日本体育協会理事会において開催内定を承認、3年前には文部科学省と日本体育協会が会場地総合視察を行い、日本体育協会理事会において開催決定を承認、前年にリハーサル大会を実施しております。

推進母体として、9年前に国体準備委員会、3年前に国体実行委員会を設立しております。

県事務局としましては、10年前に国体準備班、9年前に国体準備室、7年前に国体準備課、4年前に国体総務課・国体競技式典課・国体\*施設整備課、3年前に国体・障害者スポーツ大会部が発足しております。

また、会場地になる市町村にも随時準備委員会が設置されることとなります。

続きまして、資料の2ページをごらんください。

2の昭和54年国体で使用した施設の所在、競技種目であります。

(1) 施設の所在につきましては、県内の9市に高鍋町、新富町、高千穂町の3町を加えた12市町の施設が正式競技の会場として使用されて

おります。

(2) 正式競技種目としましては、スキー、スケート、アイスホッケーの冬期競技を除きますと、昭和54年当時は水泳や陸上など29の競技が行われました。

また、現在クレ射撃や山岳など8競技を加えた40競技が正式競技となっております。

続きまして3、昭和54年国体で使用した施設の現状であります。

県有施設、市町村施設ともに、競技会場として使用された施設のほとんどが設立から30年以上経過し、老朽化している状況であります。

そのような中、県有施設では陸上や水泳など各競技の公認施設としての維持や県体育館の耐震化、またライフル射撃競技場の電子標的への随時変更など、定期的に改修や維持補修に努めているところであります。

しかし、県体育館には空調設備が整っていないことなど、特に夏場の利用を考えますと、今後も引き続き整備していく必要があると考えております。県立学校の施設も同様に老朽化しており、中には統廃合により現在は県の所有ではなくなったものもあります。

市町村の施設についても同様でありまして、中には改修等が行われていない施設もございます。

続きまして4、昭和54年国体以降に整備された施設の状況についてであります。

県有施設では武道館やサンマリンスタージアム、木の花ドームが新たに整備され、県立学校や市町村でも新設された施設があります。特に、屋外競技についてはスポーツランドみやざきを推進する中で、各競技のキャンプ誘致のために整備されたものも多くあります。

※4ページに発言訂正あり

資料の3ページをお開きください。

国体後に新たに整備された施設としまして主なものを上げております。

県立学校の体育館では大宮高校や高鍋高校など、また市町村では宮崎市を初め、各地で新たな施設が整備されております。

続きまして5、国体を開催することになった場合の課題であります。

県内の施設の多くは老朽化はしているものの、日本体育協会の「国民体育大会施設基準」によりますと、ほとんどの競技は県内で実施することは可能であります。

しかし、水泳の飛込や水球、クレール射撃など、県内に基準を満たす施設がなく、本県での実施が難しい競技もあります。

また、県有施設については、陸上競技場が開会式の基準である3万人の観客を収容できないことや、県体育館は空調設備がなく、既に建設から50年近く経過していること、また運動公園のプールは夏場の水温上昇が懸念されるなど、全国のトップクラスの選手が競い合う大会の会場としては、必ずしも十分な競技環境を提供できないといった課題を抱えております。

国体開催を考えますと、隣県の施設活用も視野に入れる必要もありますが、今後も県民の健康増進を図り、「スポーツランドみやぎき」を推進する県民の財産として有効活用できるよう、長期的かつ多様な視点で検討する必要があるものと考えております。

4ページからは資料になります。

「資料1」では、昭和54年国体で使用した施設の一覧について、会場地と競技名、競技会場所在地を、7ページからの「資料2」では、県と市町村の施設の現状等について記載しておりますのでごらんください。

訂正をお願いいたします。

資料の1ページの(2)のイの内々定後のスケジュールのところですが、正しくは「施設調整課」とすべきところを、「施設整備課」と申し上げました。おわび申し上げまして訂正いたします。

教育委員会の説明は以上であります。

○孫田観光推進課長 平成25年度県外からのスポーツキャンプ・合宿の受け入れ実績について御報告いたします。

「スポーツ振興対策特別委員会資料」商工観光労働部の1ページをごらんいただきたいと思います。

スポーツキャンプ・合宿の受け入れ実績につきましては、県内全ての市町村に加え、選手等の宿泊施設などから、団体ごとの参加人員や滞在期間等の御報告をいただき、それらをもとに集計、分析した結果を毎年公表しているところであります。

まず、25年度、25年4月から26年3月までの年間を通しての状況であります。

プロ野球、Jリーグなどのプロ、社会人・学生などのアマチュアを合わせまして1,211団体、参加人数2万9,738人、延べ参加人数17万3,633人という結果でございました。

主なポイントといたしましては、団体数、参加人数は前年度を下回ったところですが、Jリーグ鹿島アントラーズの夏季合宿や3年ぶりに埼玉西武ライオンズの秋季キャンプが実施されたため、延べ参加人数は過去最高を更新したところであります。

それに伴い、1団体当たりの滞在日数は、前年度の5.5日から5.8日に増加しております。

また、種目別では、野球、テニスの延べ参加人数が前年度と比べて増加しております。

なお、資料の下のほうに年度実績の推移を載せております。

次のページをお開きください。

続きまして、春季キャンプの状況についてであります。

先ほど1ページで御説明いたしました平成25年度実績の内数となっております。団体数につきましては、プロ、アマチュアを含めて合わせて498団体、参加人数は1万2,497人、延べ参加人数9万1,049人となっており、団体数及び参加人数は過去最高を更新したところであります。

主なポイントといたしましては、25年春季のWBC日本代表合宿など特殊要因が26年春季にはなかったため、延べ参加人数は前年を下回ったところです。

また、観客数はWBC日本代表合宿があった前年より減少いたしました。松井秀喜氏が臨時コーチを務めた読売巨人軍や柿谷選手や新加入のフォルラン選手を擁するセレッソ大阪では大幅に増加いたしました。大いににぎわったところであります。

続きまして、経済効果等についてであります。

キャンプの参加者や観客の方々をもたらした経済効果は89億9,400万円、また宮崎キャンプの模様が全国ネットのテレビや新聞で紹介された状況をCM・広告料金に換算したPR効果は56億5,900万円ございました。

主なポイントといたしましては、経済効果は延べ参加人数と観客数の減少により、またPR効果は同時期にソチオリンピックが開催され、報道がオリンピック中心になったことで、前年より宮崎キャンプの情報量が少なくなった結果、いずれも減少をしております。

次のページをお開きください。

平成25年度キャンプ・合宿の市町村別受け入

れ状況についてであります。

市町村ごとに表の左から団体数、参加人数、延べ参加人数、主な受け入れチーム、平成25年度の新規チームを記載しております。

なお、主な受け入れチーム及び平成25年度の新規チームは、宿泊した場所ではなく、合宿を実施した施設をもとに市町村ごとに整備したものであります。

参考までに、宮崎市では読売巨人軍や福岡ソフトバンクホークスなどのプロチームを初め、生目の社運動公園では中央大学硬式野球部が、また県総合運動公園ではワコールなどの社会人陸上チームが合宿を実施していただいたところであります。他の市町村につきましても記載のとおりでございます。

このように、スポーツキャンプはスポーツランドみやぎづくりの中核を担っており、観光関連産業など、本県経済への波及効果や観光宮崎の全国への発信に大きく貢献しているものであります。

また、今年度に入りまして、ラグビー日本代表の合宿やトライアスロン23歳以下の強化合宿など、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿誘致の成果が目に見える形で出てきております。

スポーツランドみやぎの一層の推進のため、今後とも官民一体となってスポーツキャンプ・合宿等の誘致に向けて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、お手元には今月作成いたしましたスポーツランドみやぎをPRするパンフレットを置いております。

今後、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や各スポーツ競技団体、旅行エージェント等へのセールス用として活用して

まいります。参考までにごらんいただければ幸いです。

報告は以上でございます。

**○山下委員長** 執行部の説明が終了いたしました。

御意見等がございましたら御発言をお願いいたします。

**○右松委員** 国体の誘致の件なのですが、先ほど話がありました1988年の京都大会から2巡目に入ったわけございまして、その前年が沖縄が1巡目の最後でございまして、そして2024年まで、2024年が滋賀県ということで決定しておりますので、2024年までには既に37都道府県の開催がもう決定をしているという状況でございます。

ですから、残り10の中に本県も入っているわけなのですが、九州がもう既に福岡、熊本が2巡目が終わってしまっていて、大分も終わって、そして長崎が今年度ありまして、そして2020年の東京オリンピックのときは鹿児島ということで、2023年が佐賀県ということで残り宮崎しかもうないわけなんです。

ですから、そういった中で2巡目の場合、どちらかという、誘致も各県持ち回りの色彩が強くなってきているのかなど。

ですから、やはりこのまま続けば、宮崎はいずれにしても20年以内には引き受けることになるだろうという中で、やはり県の経済状況を考えれば身の丈に合った国体を目指すしかないわけなのですが、私が気になることは3ページの現状の国体を開催することになった場合の課題のところでありまして、この中で多くの競技は県内施設で実現が可能であるという、そういった分析を出されておりますけれども、私が調べた限りによりますと、これは2021年の三重県の

国体の競技施設基準の中で見ますと、この中でも例えば陸上競技場でありますと、メインスタンドが少なくとも7,000人以上の屋根つきをするというようなことも書かれてあったりとか、あるいはきょう現地、木花を見てまいりましたが、プールも屋根がついてないというような状況もございました。

老朽化に関しては、もう申すまでもありませんけれども、こういった中で、私はやはりこれはもう相当な改修が必要になってくると思っています。

ですから、確かにコースのレーンの数とか、そのあたりはできなくはないと思いますけれども、しかしやはり大幅な改修が必要だと思っています。

ですから、現段階である程度その事業費の概算というか、今後、目指すのであればある程度出していく中で、計画的にやはり改修をしていかざるを得ないと思うんです。

そういった現状のこの分析をどうされておられるのかということと、今後の考え方をちょっと教えていただければありがたいです。

**○日高スポーツ振興課長** 今、現段階では国体の開催基準等をしっかり踏まえているという状況で、あと本県の今の施設の状況等もしっかり分析をしながら、最終的にはどこをどう改修していくかということは、総合的にやはりいろいろな形で判断していくべきだろうとは思っております。

そういった意味では、幾つかのパターンを想定して一部改修で済むのか、あるいは全面的な何らかの改修をしなければならないのかも含めて、いろいろなシミュレーションはしていくべきだろうということで、今そういった研究をしている段階ではあります。

○右松委員 陸上競技場で、例えば例にあります夜間照明設備とか、あるいは雨天走路をつくらないといけないとか、いろいろもう既にわかっていることでありまして、ですからもう手を挙げれば国体は恐らく決まるような状況だと思うんです。

先ほど、1ページのほうに長崎のスケジュールの例が出てますけれども、やはりもう10年単位で考えていくのであれば、ちょっとやはりもし本当にやるということであれば、やらなければいけないということになれば、スピードアップしながら施設の現状をやはりしっかりと分析して行って、計画的にやらないといけないなということを申し上げたいなと思っています。

○山下委員長 いいですか、答弁が要りますか。何かありますか。

○日高スポーツ振興課長 必ず改修をしなければいけない部分がありますので、そこは確実に押さえていかななくてはいけないというふうに思っております。

また、国の補助金等いろいろありますので、そういったことも含めて改修をするほうがいいのか、あるいは別な方法がいいのかも含めて、しっかりと今調査をしているところでありますので、そういったところは今のうちから長期的視点に立って、委員御指摘のとおり、しっかりと準備をしていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○右松委員 先ほど、冒頭申し上げましたが、やはり身の丈に合った国体を目指すしかありませんので、限られた予算の中で最低限の改修はやはりしっかりと、もう既に計画を立てながらやっていく必要があるということを申し上げて終わりにします。

○渡辺委員 教育委員会の資料の3ページの、

国体を開催することになった場合の課題というところの4段落目に、「開催施設については県内の競技人口が少ないものは隣県の施設も云々かんぬん」というふうに書いてありますが、これはわかっている分があるのであれば、具体的に、国体の競技で宮崎県内では国体の競技をやるのが難しく、それで熊本なのか大分なのか鹿児島なのかはわかりませんが、隣県にはそういう施設があるということを指しているのだと思いますので、具体的にその競技を教えていただけませんか。

宮崎で開催するのは現時点では難しい、新しく施設をつくれれば別という話かもしれませんが、具体的に教えていただければと。

○日高スポーツ振興課長 今現在、明らかに言えるのは、冬の競技はもう3競技とも宮崎では開催は不可能ではないかと思っております。スキー、スケート、アイスホッケーの3競技になります。

クレ射撃場も県内にはありませんので、この開催も今のところでは厳しいのかなというふうに思っております。

あと、飛込、あるいはシンクロナイズドスイミング、水球といった競技も現段階では県内には競技のできる施設はございません。

それと、カヌーのスラローム競技も県内に競技施設はありません。これは、可能性のあるそういった川も川幅あるいは長さを見たときに、現段階では今厳しい状況にあります。

今のところ、確実に今の県有施設で本県では競技開催が難しいというものは、そういった競技になるかと思っております。

○渡辺委員 今の施設は、隣県には対応可能な施設があるのですか、周りには。

○日高スポーツ振興課長 8年に1度、九州ブ

ロック大会が宮崎で開催されるのですが、そのときは今申し上げた競技は、熊本県でクレール射撃を行っております。あと、カヌーのスラローム競技も大分県もしくは熊本県で開催しております。あと、水球、シンクロナイズドスイミングは福岡県のほうで九州ブロック大会を開催しております。隣県で開催するような施設は全国トップクラスの施設がございます。

○十屋委員 国体となるとどうしても施設が要するというので、我々もずっと施設を回らしてもらっていますけれども、それぞれ競技団体の思いとすれば、我が競技はということがどうしても出てくると思うんです。

そのときにどういうふうに御理解いただくかという中では、この課題にあるようなところをきっちりと教育委員会としての考え方、それと県としての考え方がやはりある程度、12年後ぐらいになりますから、どの段階で出すかということとはわかりませんが、しっかりそのあたりを考えて進めないと、それぞれやはり思いがあって競技されている方々ばかりなので、そのあたりをいつごろまでに方向性を出せるのか、その辺もちょっとまた検討いただきたいなという思いがあることが一つと、それからよく一極集中ということで、きょうも総合運動公園を見せてもらいましたけどすばらしい、国体1巡目のときにはすばらしい体育施設が1カ所に集中して、効率的に効果的に大会が開催されたと思うのです。

その時代と、現在のように各県内市町村の体育施設等もありますけれども、宮崎県のいろいろな意味で経済波及効果とか地域の活性化とか、そういうものを全て考えたときに、前みたいなそういうあり方でいいのか、そしてもしくは各県内ブロック、ここに当時の一覧表が出てます

けれど、そういうふうに分散して各市町村にお願いするのであれば、それなりの施設等をつくるときに、当然、市町村とも連携されなければいけませんけれども、そこを県内の中での分散開催というところの考え方をどう考えるのか。それによってやはり施設、ハードの面も含めて県がやらなければいけないこと、市町村がやらなければいけないこと、そして協力してつくらなければいけないことがおのずと出てくると思うんです。

ですから、これまでの国体のあり方ということ、もう少しから考え直していただいて、県内に、この当時もいろいろ分散はしているのですが、当然、一極集中的な発想でやられているので、そのあたりをどのように今考えるかということ、その中によってやはり県の施設は前からいろいろな議論があるように、各県内にある程度できるものは分散して施設整備をする。

だから、そういうことも考えなくてはいけないのかなというふうに思うのですが、そのあたりの考え方というのはまだまとまっていなと思うんですが、現時点では前と同じような形でやるのか、そういうふうに各地域を重点として考えてやるのかというのは、まだお考えはまとまっていなすよね。答えを言っちゃったみたいだけど。

○日高スポーツ振興課長 御指摘のとおり、まだ、これから時間をかけてじっくり市町村等とも協議する中で考えていくべきことだと思いますが、第1回大会の宮崎国体のときの開催を見ましても、そのときの財産は、市町村で開催された競技も県立高校の体育館等をかなり活用して、日向市ではバスケットが開催されておりますし、あるいは都城市、小林市ではバレーボールが開催されております。



そのときは、市町村の施設と県立学校の体育館等も利用して開催されたのですが、その後の県の高校総体あるいは各種大会等もそういった形で、県立高校の施設を持ち回って、今、バスケットにしても、バレーにしても、サッカーにしても、いろいろな競技が県北で必ず4つの大会のうち1つはやる、あるいは県南で4つの大会のうち1つはやるという、県西で1つはやるという形で、うまく県有施設、市町村の施設を利用してバランスよく県内一円、大会を開催している状況があります。

そういったことを考えると、一極集中することのよさも確かにあると思います。大きな大会を呼ぶときには、宮崎県体育館と市の体育館が近くにある関係で、非常に大きな大会・イベントが、バスケットにしてもバレーにしても宮崎で開催される状況はあります。

あるいは県の総合運動公園もあれだけ施設が1カ所に集まっているので、大きなイベントを開くこともできますので、そういったことも含めて総合的にやはり2巡目国体を開催するに当たっては、じっくり考えていくべきだろうなどは思っておりますが、ただ今のところはまだそういったところぐらいしか答えられませんけれど、よろしいでしょうか。

**○十屋委員** 結局、私がバスケットもずっとやっている、課長、御存じのとおりなんですけど、高校総体のときはそういう財産である程度つないできたと思うのですが、もうはっきり言って日向市は体育館がないので、文化交流センターを使ったとき、女子の高校総体の決勝をしたら、日本協会から皮肉を言われて、バスケットはエンドが4メートルないといけないのですけれど、実際のところ、実質4メートルなかったんです。

「宮崎のメジャーは1メートル短いね」って

言われたのを、今でも悔しく思っているのですが、そういうことがあって一部、熊本県などではやはり高校の体育館がちょっとサイズが大きいものをつくっていたりするじゃないですか。ですから、そういうことであれば理解できるのですけれど、ですから国体のときにもそうですけど、総体のときもバスケットで小学校の体育館が普通の体育館よりも大きくて、2つつくっていただいてギャラリーもあって、全然違うイメージであるのですけれど、そういうものもあるのだけれども、実質的には体育館の施設だけではなくて、競技する備品とかも含めてなかなかもう古くなってきているという現実がありますよね。

ですから、そういうことを考えると、やはりある程度その方向性、同じような方向でやるのかどうかというのは、もうじっくり考えていたのでは間に合わないと思うんです。早急にある程度その方向性はちゃんと決めて、それでじっくり取り組むならわかるけれど、じっくり考えていたら取り組み時間がなくなるので、そのあたりをやはりある程度もう、そのために我々の特別委員会も1年かけて調査をやって、その方向性を皆さんと一緒に協議しながら国体に向けて、それから東京パラリン・オリンピックに向けてもう一緒に頑張ろうということなので、そのあたりは早急にやはり方向性を検討する必要があるのではないかなというふうに思います。私、もうそれは意見で構いません。

**○星原委員** 今の意見に関連するのですけれど、今、都城市が来年、再来年に向けてですか、早目に体育館をつくろうとしているんです。

そうすると、やはりそういう施設も県と市町村とこれからつくっていく、要するに昭和40年代、50年代につくった施設が古くなってきてい

るところがいっぱいあるのでつくっていくと思  
うんです。

そうすると、県内でどこでそういう施設をど  
のように、要するに1メートル足りなかったら  
競技はちょっと厳しいとかという話しがきょう  
も出たように、これから施設をつくる場所は  
県の施設でも市町村の施設でもその連携をとっ  
ていただいて、せっかくつくるのであればもう  
少しそういう大会ができる、せいぜい国体、国  
際大会は無理としても国体あるいは九州大会と  
か、いろいろな大会ができる程度にするのにあ  
と何メートルか延ばせばそういうことが可能だ  
となれば、やはり予算的なものやいろいろあ  
るのでしょうけれど、やはりその辺のところ連  
携をとりながらしっかりやっていかないと、せっ  
かくできた施設が十分な施設として使えないと  
いうことも起こり得るような気がするんです。

ですから、この十何年間の中に、二、三年の  
間にそういう時代が来るのであれば、今からつ  
くっていく施設はそういうことも考えながらつ  
くっていただくということが一つと、確かに一  
極集中もいい部分もあるのでしょうけれど、昭  
和40年代、50年代国体があったころはまだ高速  
道路でもつながってなかったわけです。

もう今、高速道路もつながると、ある程度そ  
ういう交通網の整備はなされてきているので、  
あとそういう施設をつくるのに、だから県内に  
ある程度、県北、県央、県南とか配備の仕方も  
やはり考えていただいて、終わった後にその施  
設を地域の人たちがまた活用できるような、そ  
の大会のための施設と言ったって、また国体が  
来るのは何十年ぶりしか後は来ないわけです  
から、やはりそういうことも考えてほしいなとい  
うことが1点と。

あと、商工観光労働部からあった説明で、ス

ポーツキャンプの25年度の説明等があったわけ  
ですが、今、県は2020年のオリンピックに向け  
て誘致という言葉は聞くのですけれど、その  
受け入れに対しての施設がどういった国とか、  
どういった種目、競技とか、そういうものも目  
標にして決まって誘致しないと、言葉だけが踊っ  
ている間にもう何年かたってしまって、誘致す  
るだけの施設が本当にどういう施設があるのか  
ということ等もやはり考えて、そしてまた国体  
に、その次の五、六年後とか、七、八年後に向  
けてのそれでも活用ができるような形のもの  
ということで、やはりその辺のところも考えてい  
くと、予算的な面でも急にできるはずがないの  
で、今からそういうものの予算面の工面とそう  
いう施設面の整備をどうしていくかということ  
を、やはりここ一、二年の間には方向性を決め  
ないと間に合わないのではないかなという気が  
するものですから、その辺についての考え方は  
どうなっていますか。

○孫田観光推進課長 委員、御指摘の点でござ  
いますけれども、東京オリンピック・パラリン  
ピックに向けて宮崎の受け入れ体制ということ  
は、今、全庁的に取り組むということで組織を  
立ち上げてやっていこうという形になっており  
ます。

商工観光労働部といたしましては、こちらの  
プロジェクトチームといいますか、それを、内  
部的にそういう受け入れのための体制をつくり  
まして、県内におけるスポーツ、オリンピック  
・パラリンピックに向けて誘致をすと言いま  
しても、正式競技を宮崎でやっていただくとい  
うことではありませんので、事前合宿、直前合  
宿、そういった代表レベルの事前の合宿等をや  
っていただくということですので、施設水準その  
ものは国際大会が開けるような施設が必要なわ

けではないということで、どの程度のものであれば合宿等に使っていただけるのであるかということは、競技団体等といろいろ話をし、県内の各施設の状況、どの程度のものなら受け入れられるか、どういう競技ならば対応できるかということを中心に現在取りまとめをしているところでございます。

こういったものに基づきまして、各県内の各競技団体はそちらの部会のほうに加盟していただいておりますので、その上位団体等にそれに基づいた形で、国内の競技につきましては働きかけをしていきたいと。また、国外のオリンピック等の合宿地につきましては、どうもオリンピックの組織委員会のほうが全国の調整を行うような形で、今、準備をしているというような報道もされておりますので、そちらのほうの情報をしっかり把握しながら対応してまいりたいというふうに考えております。

**○星原委員** 今、説明いただいたので、そういう形で行かれるということはもう理解しますが、ただ今言う、オリンピックのその合宿誘致も絡めて、その国体のということで、いずれその国体でも使うというのであれば、その誘致に向けての施設整備もやはりあわせてそこで力を入れていって、年度ごとにどういった施設とか、あるいはさっき言ったように、どういう施設をつくろうとして市町村との連携とか、本当にそういったところの取りまとめをしないと、施設をつくろうとすればそう簡単にはできないと思うんです。

ですから、やはりその辺のところは本当に教育委員会だけではなく知事部局、総務部とか、あるいはまた市町村とか、連携のとり方も結構いろいろ範囲が広がるだろうというふうに思いますし、あるいはまた合宿誘致の件について

はオリンピック委員会といった国のほうとの連携のとり方、あるいはどこも多分47都道府県がいろいろな角度から、取り組みは同じようなことを考えているのではないかなと思いますので、やはりそれに負けないような提供できるものを準備する必要もあるだろうというふうに思いますので、その辺しっかりやっていただきたいと思います。

**○横田委員** この委員会が設置されたときからずっと気になっていたのですが、確かに十数年後に順番としたら2巡目の国体が回ってくるといことなのですけれど、そのためにどうしたらいいかということは今協議しているわけですが、順番が来るから間違いなく受けるんだという考えがあるのか、それとも施設とかの整備状況でもしかするとパスすることもあり得ると。「卵が先か鶏が先か」じゃないですけど、もうはっきりしないと進む方向が定まらないと思うんです。

もうやるのであればやるとはっきり決めてしまわないと、どういう施設を整備していけばいいのかということがなかなか定まらないと思いますので、どこかの時点でできるだけ早いうちに、もう絶対やろうということを決める必要があると思うのですが、そういったことについてはいかがでしょうか。

**○日高スポーツ振興課長** 今もしそれを決めるに当たって、どういう準備、調整が必要かということ、今、県の体育協会あるいは市町村のあるいは市郡の体育協会を含め、競技団体等と詰めておるところであります。

やはり実際、競技を運営をしていただくのは競技団体になりますので、各競技団体が気持ち一つにしてやりたいと、ぜひ国民体育大会をやりたいという意思表示をしていただかない限

りは開催はできませんので、まずそちらの確認も含めて、あるいは市町村等も会場として県と一緒にやっていただかなければなりませんので、そういった調整を十分図りながら、今後、競技団体あるいは市町村のほうでぜひやっていきたいという意味確認ができれば、それをもとに県のほうでも開催に向けて、いつのタイミングでどう開催決意を表明するのがいいかを含めて、しっかりとした準備をしていこうというふうに考えてはおります。

○蓬原委員 ちょっと関連して間に入っていいですか。

○山下委員長 はい、いいです、いいですか。  
（「どうぞ」と呼ぶ者あり）

○蓬原委員 お断りを言いましたので、関連して脇から入りますけど、8月の11日でしたか、種目の各会長さんを集めて事前のアンケートもあったと思いますが、私それも後で質問しようかと思ったのですけれど、県体育協会による国体招致決議というのがありますよね。

そのあたりの事前のプロセスがこれだということだと思うのですが、ちょっと今の横田委員の質問にお答えすることになるかと思うのですが、もう少しそのところをちょっと詳しく、今おっしゃったところを教えてください。

○日高スポーツ振興課長 今、委員が御指摘いただいたように、まず競技団体がどう考えているのかを我々がつかまないと、先に話が進まないものですから、40競技団体の責任者の方に集まっていただいて、国体開催が十数年後に迫っていると。そのときに今現在、各競技団体が受けるというか、事前にしっかりとした意思を確認していただかないと、先に我々も話を進めるというか、準備ができないものですから、その事前確認をまずしていただきたいということで、

県体育協会のほうにはお願いをしてあります。

○蓬原委員 返します。

○横田委員 当然、やるということになったら一遍にできませんので、施設も順次設備を整えていかなければいけないと思いますし、また競技力の向上も例えば指導者なり、もう全国から集めていただいて強化していかなければいけないと思うんです。

ですから、確かに競技団体の意思を確認するということは大事だと思うのですが、どこかがリーダーシップとらないと、なかなか決まらないのではないかなと思うのですが、そういったことについてはどうでしょうか。

○日高スポーツ振興課長 最終的にはそういった事前の調査をもとに、県の教育委員会初め、いろいろなところ等との協議をした中で、やはり意思決定をしていくことになると思いますので、まず今の段階では各競技団体がどう考えていらっしゃるのか、市町村がどう考えていらっしゃるのかをまず聞いて、それをもとに我々は判断したいというふうな思いでいますので、まず今度の8月の11日の段階では、そういったそれぞれの競技団体の責任者の方に集まっていただいて、国体開催に向けての意思確認をしていただくということにしております。

○蓬原委員 リーダーシップという話も出ました。

その各種目の会長さんたちがお集まりになりますよね。果たしてノーと言う人がいらっしゃるかいらないか、割合として、もしあったとしてもノーと言う人がいらっしゃるかどうかということだろうと思うので、やはり采配という言葉があるじゃないですか。采配を振るということは「行けっ」という大方針を出すということですよ。それがリーダーシップである

し、県の目指すべき方向を、ちゃんとやるんだという、それを一つ一つボトムアップで聞いていくということは、手続としてはそれは必要かもしれません。

ですけど、もう常識に考えて1巡目、2巡目で来てるわけでしょう、これを断る選択肢はないと思うんです。

であるならば、宮崎県として、いや、次、来るんだぞと、もう今までこう行けば何年目です。むしろこのようにやりましょうということ——私も行きます、自転車競技ですから、絶対ノーとは言いませんから。

ですから、これはこうですと、皆さん、どうですか、やりたいと思うがどうかというような話を持っていったほうが、事前のアンケートはそれでいいけれど、それぐらいのことでやらないとだめじゃないですか、どうですか、教育長。

**○飛田教育長** 物すごいエールをいただいたというような気もして、今聞かせていただいたところなのですが、実は佐賀県の教育長さんに佐賀県が国体に内定するかどうかについてずうっといきさつを聞いたのですが、やっぱり一番苦慮されたのは県全体のムードをつくること、それから体協との関係で聞いたことは、体協にお願いすることは3つあると、1つは選手をどう育てるか、絶対優勝しなきゃいけないかということはいろいろ考え方があるのでしょうか、今までの流れではそう来ている。

選手を育てるためには指導者をどう育てるか、それから運営スタッフ、役員団をどう育てるか、そうすると競技団体によってはやはり厳しいところもあったと。いろいろなサポートをしながら、実はこれ以上言っていないかどうかはわからないのですが、私たちもいろいろなことを考えながら、例えばかつて宮崎県でなかなか競技人

口が少なかった競技が、今、国体の最大得点種目になっている競技もありますが、そういう仕掛けができないかという動きも今いろいろなことをやっております。

大事なことは3つあると思うのですが、1つはそういう競技団体と県なりが呼吸をとれて、いろいろなところを考えても行けそうだと、みんなでやろうじゃないかという話と、もう一つは連携という話を先ほどからいっぱいおっしゃっていますが、市町村もちろんですし、県の組織の中でも知事部局と教育委員会全体がきちんと意思疎通ができること、それから民間にもぜひお願いしなきゃいけないと、そこをずっとローラーを展開するところが今の時期だと思っています。

実は、佐賀県が国体をやろうとしているのは35年です。大体、本決まりという形になりましたけれど、それも去年あたりまでなかなかうまくいかなかったと。そういったことを踏まえながら機運の醸成とか下準備をしていきたい。

もちろん、施設のこともありますけれど、それ以外のこともしっかりと形できちっとみんなで行きましょうと、合意形成をつくるような形をとっていくのが一つの、表ではっきりとは今言えないですけど、リーダーシップの一つだと思ってやっているところでございます。

**○蓬原委員** ですから、そういう方向性を持ってローラーをしっかりとかけながら、かけ過ぎて橋が壊れてもなりませんけれど、そういうことですよね。

そのために機運を醸成して、高所恐怖的などころはそれでできる環境なり、意識づけをしてやっていこうと。だから、そのベクトルはやっぱりあるんだということだろうと思っていますし、我々もこの委員会をつくった意味というも

のはそこにあると思っていますので、ひとつそういうことでしょうか、きっと、よろしく願います。

**○徳重委員** 今お話が出ているとおり私も考えているのですが、10年後、早くてもそういう流れの中で来ているわけですから、今、教育長がおっしゃったように選手育成あるいは大会をやるためには、それなりの準備をしておかなくてはいけないとか、いろいろなことがあることはわかるのですが、やるという前提でないとかなかなかうまくいかないという考え方もあると思うんです。

やはり長いスパンをかけなければできないわけですから、施設の問題から、あるいは選手育成の問題から、そう考えますときに、やるということが大前提になってこない限り、いろいろなことは機運が上がらないと。どうしようかどうしようかと。

そして40近くの競技団体があるわけですから、その中でできない競技もはっきり今でもわかっているわけです。全部ができるということではないわけだから、もしも競技団体でできないところがあればそれはもうやむを得ない、もう決まった競技は場所を変えてでもやらなければいけないわけですから、ですからほかのところをお願いするという形ができると思うんです。

やるということが決まってない限り、いやあ、どうのこうのと言っているようであれば、一步も前に進まないと思うんです。

もし、できない団体があるのだったら、隣県をお願いしていくというような形、基本はやるということがいつの時点で出てくるかということからが出発点だろうと、前もって地ならしを先にしようというのではなくて、やはりやるという座布団をちゃんと敷いて、それから協議し

ていくという方向性を見出していきたいなと、こう思うのですが、いかがでしょうか、教育長。

**○飛田教育長** 委員がおっしゃるとおりでありまして、その競技によって宮崎ではどうしても、先ほど冬の競技の話しましたが、できない部分はちゃんと協力をいただきながらやる。

ですから、今そういうための宣言ができるための準備をずっとさせていただいております、やるためにはどういう準備が必要かということ、今ずっと詰めておるところでありまして、そのことがある程度のことのできたときには、本当に皆さん、そういう宣言をさせていただきますねと言える日が、早くできたらいいなとは思っておりますが、今のところはそういうならしをしながら、その段取りを詰めていっているという取り組みをさせていただいているところでもあります。

**○徳重委員** そうすると、施設整備のことについてですが、我々も県内あるいは鹿児島県までずっと調査をさせていただきました。

やはり、やりたい市町、こういう整備をしていきたいという市町村がそれぞれあります。そういった声を、ぜひ県はまず先に吸い上げていただきたいと。そうすれば、分散型の問題や、一極集中といったいろいろな話が出ておりますが、それぞれいい面がたくさんあるわけですから、それなりに分散できるんだったら県内に公平に分散してほしいということが、我々議員の中でもよく出る話でありますし、また市町村、そういった地域でもそれを望んでいらっしゃる場所が多いと、こう思うんです。

ですから、ましてオリンピックが6年後に行われる、そして10年後に国体ということになると、これからスポーツに関して県民の意識はど

んどん高まっていくと思うんです。

そういったことを考えますときに、今ここで頑張らないと、ここでちゃんとした方向づけをしないと、私は前に進まないと思うんです。

ですから、少し早い時期にそういうような全市町村の考え方などを吸い上げていただきたいと、そして方向づけをしていただきたいなということをお願いをしておきたいとこのように思います。もういいです、答えはいいです。

**○山下委員長** ほかにありませんか。

**○十屋委員** 商工観光労働部のほうに、スポーツキャンプの話で新しいパンフレットをつくっていただいているのですが、最後のページに聖火リレーの話もあるのですが、当然これに一生懸命、県としてもやっていかれると思うのですが、その次のページでダンロップフェニックス、アクサレディス、LPGAチャンピオンリコーカップ、ゴルフの大会が3つぐらい列挙されているのですが、オリンピックで次期開催のときにゴルフは競技になるのですよね。

宮崎はこれだけ大会をいろいろやって、東京近辺にもたくさんいいゴルフ場があるというふうには伺うのですが、宮崎県としてゴルフをメインにして誘致する、オリンピック・パラリンピックの本大会なりに向けてという考え方は、まだ全然出ていないのですか。これだけすばらしい施設が民間にあるので。どうぞ。

**○孫田観光推進課長** ゴルフの施設につきましては、大変すばらしい施設だということで、日本ゴルフ協会等の全国組織等からも高く評価を受けた上で、そういう選手の強化施設と強化拠点というような形での位置づけもいただいているところなのですが、オリンピック・パラリンピックの本大会は、あれは東京都が開催されるので、宮崎県でゴルフ会場ということはちょっと

と想定はされないかと思っております。

ただ、その練習場所として、事前の合宿は宮崎県でやっていただければというふうには考えております。

本大会だけではなくて、毎年ずっといわゆるゴルフ選手の若いときからの、ジュニアのときからの育成場所としてもここは御活用いただくということで、今、取り組んでいるところでございます。

**○十屋委員** どういう形式でオリンピックのゴルフが開催されるのかは全然わからないのですが、それが東京都だけで消化し切れるのかどうかということは全くわからないのですが、多分、東京都だけでは無理じゃないかなと正直思うのですが、その辺のところをちょっと調べられて、もし万が一、無理であるならばその近郊のゴルフ場ということになるのかもしれませんが、練習場としての拠点施設としての位置づけはもう評価いただいていることですので、可能性がゼロじゃなければチャレンジするのでもいいのかなというふうに思いましたので、ちょっと聞かせていただきました。

**○蓬原委員** この前、五ヶ瀬町に行ったのですが、何千人ですか、小さな町ですが、カタールを事前キャンプ地として、対象国として呼びたいということで具体的に、まだ今からでしょうけれども、そのために役場の皆さん、スピードラーニングも聞きながら英語の勉強をもう始めているんだという町長さんの話もあって、いやあ、大したものだなと思って感心もしたのですが、具体的にそうやって取り組んでおられることに、県として今どういうふうな関与というか、応援というか、やっておられるのか、まずそのところをお聞きしたいと思います。

**○孫田観光推進課長** 五ヶ瀬町とカタールの関

係につきましては、五ヶ瀬町が基本的にまず独自イニシアチブをとって始められておまして、宮崎県として今の段階で特段の支援をしているとか、具体的なものは特にはございませんが、これまでそのベースとなっております五ヶ瀬町のGパーク、ああいった施設の整備については、これまでもずっと県も支援をして、ああいったものができ上がってきているということでございます。

これから先、五ヶ瀬町とカタールの関係というものがどんどん進展していくというような中では、さまざまな側面的な支援をしていくことも考えられるのかなというふうに思っておりますし、またあそこはカタールとの関係だけではなく、いわゆるスポーツボランティアといいますが、さまざまな大会運営のボランティア養成といったことも、今後の視野に入れてやっていきたいというふうに考えていらっしゃるようですので、これもうまくいければスポーツランドみやざきの、また一つの資産となっていくのかなというふうに期待をしているところでございます。

**○蓬原委員** そのとおりだと思うんです。

だから、もしこれが成功すれば、宮崎県として見たときには、カタール、ここがこういうキャンプに来られるわけですから、非常にいいことだなと思うのですが、話変わりますが、2002年、二千何年でしたかね、日韓共催ワールドカップサッカー大会、本県がキャンプ地になりました。

あのときにはドイツとの事前の試合などがあって、ドイツまで同時衛星放送がされて、非常にそういう一つの成功例として本県は持っているわけですね。本大会地ではなかったですね、事前キャンプですね。

ですから、そのあたりの経験を生かして、今

回また同じエンジンをかけてぜひやっていただいて、特にここは種目が多いわけですから、あのときはサッカーだけでしたけれど、サッカーもそういう実績がある、これに加えていろいろな種目をやっていけば事前キャンプは必ずできることだと思っておりますので、ぜひ頑張りたいと思っていますので、この委員会もこうやってあるわけですが、そういった意気込みは、次長、どうですか。どちらでもいいのですが、やはり意気込みがないとですよ。

**○梅原商工観光労働部次長** 済みません、では、御指名でございますので、委員長、答えさせていただきます。

まさに2002年、ドイツとスウェーデンという強豪チームを宮崎が受け入れることができ、あの当時もキーパーのオリバー・カーンという方が、非常に有名人がおりまして、結構なやはり発信効果をしていただいたところでもあります。

その後、2008年の北京オリンピック、これが残念ながら宮崎へのキャンプ・事前合宿はとれておりません。九州でも福岡と熊本だけでございました。

そのこのところをやはり今回盛り返していくと、これが大事かと思っております、いち早く、先ほどゴルフの紹介もありましたけれども、九州では唯一ゴルフの強化拠点ということで、文科省から指定をいただいたところでもあります。

あるいはトライアスロンのほうも、日本の連合チームの一応強化拠点の指定を受けて、行く行くはナショナルトレセンという形も目指していきたいと思っております、要はそういうナショナルトレセンというブランディングというのでしょうか、そこで宮崎県のスポーツキャンプというものをあえて今回、「スポーツキャンプの聖地」というふうにちょっと高く掲げたところで



ございますけれども、そういったのを足がかりにしながらやっていきたいと思えます。

先ほどちょっと五ヶ瀬の紹介がありました。実は、せんだってカタールから商工会議所の方がお見えになられまして、現地との交流会がありまして、一応、県を代表して教育長と一緒に参加をさせていただきました。残念ながら、まだ五輪関係者は来てなかったのですが、商工会議所の偉い方が来ていまして、今後のやはりネットワークづくりという意味では、県もあれだけの小さな町で大きな挑戦をしていこうということですので、サポートを十分していきたいということなんです。

要は、いずれにしましても、キャンプ地としての本当、真価というか、絶好のチャンスが問われる機会が来ておりますので、本当に県、それから市町村一体となりまして、このスポーツキャンプの聖地というのも形にしていきたいというふうに思っております。

**○蓬原委員** その市町村の取り組みですよ、五ヶ瀬町さんはそうやっておられる、例えば綾町もありますよね、あるいはほかの市町村でもそういうことができる可能性はいっぱいあるわけですよ。

ですから、例えば五ヶ瀬町であればカタール国、ほかのところはどこどこ国というふうにかこうできないものかな、やれば結構成功するのではないかなというような感想を持って帰ったもので、ぜひそのあたりは市町村の皆さんとも、その五ヶ瀬町の例をいい参考例としながら、やるのであれば今のうちにこういう手法がありますよみたいなことを、県として取りまとめていくというのはどうかと思うのですが、感想があれば、なければ結構です。

**○孫田観光推進課長** まだ正式なお知らせとい

いますか、具体的なことがよくわからないのですが、先ほどちょっと申し上げましたが、一部の報道されたところによりますと、いわゆる各地方自治体に対してどういった競技あるいはどういった施設があって、運営能力があるといったものを条件をかけて募集をすると、受け入れ希望の自治体を募集するというような動きがあるやに聞いております。

もちろん各地方自治体独自で各国に接触をしてということも考えておりましたが、そちらのほうが近いうちにある程度のこと明らかになるのかなという感触を持っておりますので、そちらも見ながら、あるいは独自の、場合によっては抜け駆けもありということでやっていきたいということで、準備をしていきたいというふうに考えております。

**○蓬原委員** はい、ありがとうございました。

**○山下委員長** ほかにありませんか、よろしいですか。ないようですのでよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**○山下委員長** それでは、ないようですので、これで終わりたいと思いますが、よろしいですね。

それでは、執行部の皆さん、御退席いただいて結構です。御苦労さまでした。ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

午後2時25分休憩

---

午後2時27分再開

**○山下委員長** よろしいですか。それでは、委員会を再開をいたします。

まず、協議事項1の県外調査についてであります。

委員会の冒頭で申し上げましたとおり、県外

調査は10月15日水曜日から17日金曜日までの2泊3日で予定をいたしております。

次回、9月定例会中の委員会では日程案をお示ししたいと思っておりますので、今回、皆様からあらかじめ御意見を伺いたいと考えております。

国体関係はどこか、これ準備が整っておるようなところがあるんでしょうか。

○後藤委員 10年後以内に開催予定のところがある……。

○山下委員長 10年以内でしょう。

ですから、きょう話の中で出てましたけれど、県外にできない部分をお願いしたいということがあったのですが、ちょっと事務局で調べてほしいんですけど、10年以内に国体があるところで、県独自の開催ができない種目、そういうところが何種目か、県外、他県を、隣県を利用してやる地域とかあれば、やはりそこもちょっとほしいなと思ったりしますけれど。

○渡辺委員 国体、今後なのか、終わったところなのか、どちらでもよいのですが、ケースを見に行くときに、できれば行政規模というか、その都道府県の規模がある程度近いところを、もう全然、都府県の力が違うところを見ても「すごいなあ」と言って帰ってくるだけになるとあれなので、そこを考慮していただければなというふうに。

○山下委員長 それも参考にしたいと。（発言する者あり）そうね。

54年の開催と、また29だったかな、また8種目新たにふえてまして、宮崎県で国体を開催する場合はかなりハードルの高い部分ですよ。

それもかなり話の中で出てきているようですが、ただ考え方として国体だから、目標があるから、やはりこの際思い切って施設整備もしていかないと、終わってしまうと何もも

う整備がもう終わってしまうような気がするし、では、そういった目標というのは、これに書いてある、どういう開催を、規模でお願いをしていくのか、やはりそこも目標に、他県の模範になるようなところがあればちょっと調査もしたいなと思って。

○後藤委員 和歌山県が来年開催ということで、やはりスポーツ施設の新築となりますと、非常にやはり県民のコンセンサスが得られないといけないということで、和歌山県、このプールが県産材をフルに使ったものでして、これが実は県民から意見が出たという話を聞いて、実際、私は見に行ったのですが、施設、その規模は違うのですけれど、さっきおっしゃった県としての規模もあるのですけれど、やはりそういった県民のコンセンサスをどう得られたという一つの例に、この県民遊泳場の中に競泳プールがあるので、これも一つの参考になるのではないかと思いますので提案をさせていただきます。

○山下委員長 わかりました。

○星原委員 それと、国体のオリンピックの施設の面が出ていますが、この委員会の人づくりの関係で、やはりスポーツを通じての先進的な取り組みをいろいろやっているところも、その近辺にあれば、あわせて視察できればいいかなというふうには思います。

○山下委員長 選手強化。

○星原委員 いろいろな取り組みをしている、国体で同じぐらいのレベルのところも、先ほどから出ているような県で上位に来ているようなところの取り組み等とか、選手強化の問題とかいろいろありますよね。

あと、知事も掲げていた野球で云々ということもあるし、そういう人づくりの面に関して、

スポーツを通じて先駆的な何か取り組みをやっているようなところがあれば、我々は、私はもうスポーツ少年団もこうやっているけれど、要するに子供たちとか中学生とか高校生とか、そういう面での先駆的な取り組みをしている県があれば、そういうところの話も調査して（「そうですね」と呼ぶ者あり）

○山下委員長 54年の宮崎県の国体では天皇杯をとったのですか、宮崎県は、どうだったでしょうか。天皇杯をとったのですか、54年。（発言する者あり）とっていますよね、54年の本県開催のときに、県は……。

○星原委員 どこも大体そういう……。

○山下委員長 開催県がとるんですよね、頑張っています。

○十屋委員 あれは、例えばカヌーも初めてだったし、ホッケーもなく、新しい今までなかった競技で参加点数を上げていって、先ほどこよと教育長が言っていたけれど、結局点を上げたのは、宮崎県が今まで、ほかの県でもあまりやってない競技にチャレンジして底上げした部分と、教員採用試験でがばっと先生をとって、そして選手で活躍させた部分と両方があって、ですから今から新たな競技に取り組むということもなかなか大変だろうけれど、そういうやり方で天皇杯、皇后杯、全部をとっている。

必ず開催県がとるような仕組みで。

○山下委員長 大体そうなりますものね。

○十屋委員 参加するポイントを上げていく、それでおのずと上がっていくのでそこで差がついてくる。

○清山委員 可能かはわかりませんが、もう一つはオリンピック関係とか合宿誘致だったので、わからないのですけれど、組織委員会とか文科省とか、そうしたところへの要望活動なども

きるのかなと思ったりしました。

スポーツ委員会という整理でしか、そういうことは県議会では難しいのかなと思ひまして、それを組み入れられれば、競技団体にアプローチしてもいいのかもしれないし。

○山下委員長 それは誘致に向けて……。

○清山委員 合宿誘致なり、オリンピック合宿だったりとか。

○十屋委員 ナショナルトレセンは見る必要があるのかないのかは別にして、やはりどういうレベルで、世界レベルで戦っているのかというのもその目標を、我々、国体レベルでよければそれでいいんですけど、結局、国体の選手もある程度、各県それぞれ、柔道なら朝比奈沙羅選手、世界に通用するような選手たちを輩出している部分もあるので、そういう面を見るのも一つ、見てもためにはならないかもしれないですけど、「すごかったねえ」で終わってしまうかもしれないけれど。

○蓬原委員 すごいものを見ることが、いずれは効果が出るかもしれないわけですよね。

○十屋委員 今、井上康生、彼が日本柔道界の指導者に、そういう人たちを交えての交流会もできればいいかなと。（「調査先のバランスがあるでしょうから」と呼ぶ者あり）

○山下委員長 例えばそういう話もでしょうけれど、よろしいでしょうか。

それでは、県外調査につきましては、ただいま皆さん方から御意見をいただいた内容のもとに、次の9月の委員会、そのときに御提案を申し上げたいと、そのように思っています。

それでは、調査等の調整などについては正副委員長に御一任いただくことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、そのような形で進めさせていただきます。

それでは、協議事項2の次回委員会についてであります。

次回の委員会につきましては、9月定例会中の9月24日水曜日を行うことを予定しております。

次回委員会での執行部への説明、資料要求について、何か御意見や御要望はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 なければ、次回の委員会の要求資料につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、そのような形で準備をさせていただきたいと思います。

最後になりますが、協議事項3のその他でございますが、委員の皆様から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、ないようですので、次回の委員会は9月24日水曜日の午前10時からを予定しております。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。御苦労さまでした。

午後2時37分閉会